

はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究

A Study on the Anxieties and Expectations of Students Preparing for
Their First Childcare Training

佐野 友恵, 大和 晴行, 鶴 宏史, 宇野 里砂, 小尾 麻希子
久米 裕紀子, 中井 光司, 西本 望, 大槻 伸子, 白井 三千代

SANO Tomoe, YAMATO Haruyuki, TSURU Hirofumi, UNO Lisa, OBI Makiko,
KUME Yukiko, NAKAI Koji, NISHIMOTO Nozomu, OTSUKI Nobuko, SHIRAI Michiyo

武庫川女子大学大学院 教育学研究論集

第16号 2021年

はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究

A Study on the Anxieties and Expectations of Students Preparing for Their First Childcare Training

佐野友恵* 大和晴行* 鶴宏史* 宇野里砂* 小尾麻希子*
久米裕紀子* 中井光司* 西本望* 大槻伸子* 白井三千代**

SANO Tomoe* YAMATO Haruyuki* TSURU Hirofumi* UNO Lisa* OBI Makiko*
KUME Yukiko* NAKAI Koji* NISHIMOTO Nozomu* OTSUKI Nobuko* SHIRAI Michiyo**

要旨

本研究は、保育実習に対する学生の不安と期待に着目した研究である。はじめての実習を控えた学生は、それまで受けてきた授業とは異なり保育現場で過ごす「保育実習」に対して大きな不安を抱いている。一方で実習に対する学生の気持ちは不安だけで構成されるものではない。実際に子どもとかかわること、保育を実践的に学ぶこと、実習をとおして自らの保育職への適性を見極める機会となることなどを期待している。そうした不安と期待の入り混じる学生の心情を踏まえた上で、保育実習に向けた指導の在り方を模索する必要性について論じている。あわせて2020年度前期においてコロナ禍における授業方法として取り入れられた「遠隔授業」が実習に向けた学びの中で学生にどのように受け止められていたのかという点についても自由記述の分析を通して明らかにした。

1. 研究目的

保育実習は学生が一定期間保育現場に出向いてその施設の職員の勤務や職務に準じた形で実習をおこなう科目である。学生は保育実習をとおして保育現場の様子を体験的に学び、実際に子どもや保育者と触れ合うことにより、保育職への意欲を高めたり、自らの保育職への適性や課題について考えたりする機会となることから、学生の学びや進路決定にも大きな影響を与える重要な科目の一つである。こうした科目特性を踏まえて、保育実習をより充実したものとするべく各養成校では試行錯誤を重ねながら保育実習指導をおこなっている。

保育実習をより円滑におこなうために、学生が保育実習に対して抱いている不安感を明らかにしようとした研究は少なくない。たとえば渡邊(2018)は、実習生の持つ不安を「保育実習不安尺度」の項目を作成した上で因子分析をおこない「子どもへの対応と保育実践に関する不安」「実習中のコミュニケーションと個人的課題に対する不安」「実習先の職員との関係に関する不安」の3つの因子を提示した⁽¹⁾。岩崎(2009)は保育実習に対する不安を「対人接触への不安」「保育技術への不安」「保育場面以外の不安」の3つに分類している⁽²⁾。こうした先行研究では、それぞれの養成校の学生が持つ不安に焦点を当て不安要素を特定している。そして各養成校の実情にあわせてきめ細やかな実習指導を可能とするべく、学生の不安解消のための方策を検討しており、その試みは評価に値する。

しかし、学生の保育実習に対する想いは「不安」だけで構成されるものではない。自らの選択により大学に入学し、幼児教育・保育について学んできた学生にとって、保育実習に対して少なからず「期待」も持ち合わせているのではなかろうか。ただ、保育実習の「期待」に関する先行研究は、「不安」のそれと比較して非常に少ない⁽³⁾。その中で貴田(2010)は、「実践知への期待」と「実習体験への期待」の2つの因子を提示した⁽⁴⁾。こうした視点から、本研究では、はじめての保育実習を控えた学生を対象にアンケート調査を実施し、学生のもつ保育実習への不安と期待の双方を明らかにすることを試みる。本稿では自由記述の内容を分析することを通して、学生の保育実習に対する不安や期待をより具体的な心情として明らかにすることを課題として設定した。

あわせて本稿では2020年度前期においてコロナ禍における授業方法として導入された「遠隔授業」にも着目した。コロナ禍において急遽実施された「遠隔授業」が、学生の実習についての学びの過程でどのように受け止められているのかについて明らかにすることを試みる。周知の通り、2019年に中国武漢ではじめて確認された新型コロナウイルスは、その後、感染地域が拡大し、日本でも多方面にわたり大きな影響を及ぼしている。武庫川女子大学においても2020年度前期の授業が基本的に遠隔授業で実施されることになった。はじめて経験するコロナ禍での遠隔授業の最中、同年6月に予定されていた保育実習も新型コロナウイルスの影響で延期となった。非

* 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University) ** 湊川短期大学 (Minatogawa Junior College)

常事態宣言やその前後の感染拡大に対する社会の混乱の中においても、学生は実習の実施時期もわからないまま遠隔授業を通して実習に向けた準備をおこなうことになった。はじめての実習前に長期間に渡って遠隔授業が続いたことに対して学生はいかなる想いをもったのか。その点も分析することで、さまざまな状況下における保育実習指導（ガイダンス等も含む）の有り方を模索する一助になるのではなかろうか。

2. 研究方法

(1) 調査概要

先述の問題意識に基づき、学生が保育実習に抱く期待や不安の縦断的变化を検討するため、本研究では、3年次にはじめての保育実習を控える学生を対象に、2年次後期および3年次前期の2回に分けて以下の調査を実施した。

「第1回調査」

調査日時：2020年1月21日

調査対象者：武庫川女子大学文学部教育学科2年次生
保育士課程履修者90名（回収率100%）

調査方法：縦断的検討の必要性について口頭で説明し、記名式のアンケート調査を実施した。アンケートは授業時間内に質問紙を配布回収した。

調査内容：「保育実習についての不安」および「保育実習についての期待」について自由記述で回答を求めた。

「第2回調査」

調査期間：2020年8月4日から8月7日

調査対象者：武庫川女子大学文学部教育学科3年次生保育士課程履修者97名（回収は87名で回収率89.6%）

調査方法：Google formを用いた記名式アンケート調査を実施した。

調査内容：「実習に臨む上で感じている不安で、前期の遠隔授業や新型コロナウイルスによる様々な自粛が原因と考えられるもの」と「実習のための事前準備や学習として、前期の遠隔授業（全受講科目を想定）の良かった点」について自由記述で回答を求めた。

(2) 分析方法

本研究においては2つの分析方法を用いた。第一に、テキストマイニングツールを用いた自由記述の分析である。本研究においてはユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を利用し、自由記述の中での単語の出現頻度およびその単語がどれだけ特徴的であるのかを示すスコア⁶⁾により、自由記述の回答傾向を分析した。その際の手順は①自由記述に書

かれた文章の中で明らかな誤字・脱字であると判断できるものについて修正をおこなった。②自由記述に書かれた文章の中で同一の内容を指す表記については統一をした（例：「保育者」「保育士」「先生」などを「保育者」に統一する）。③本研究に必要な用語に関して固有名詞の設定をおこなった。固有名詞設定は、別の単語として処理される「実習」と「記録」を、「実習記録」という用語として認識させるためのステップである。④分析ソフトを用いて、自由記述に書かれた単語の「出現頻度」と「スコア」を求めた。

第二に、佐藤（2008）⁶⁾を参考に以下の手順で自由記述の分析をおこなった。①自由記述の文章を第一著者が数回読み返す。②自由記述を意味の単位ごとにセグメントとして切り出し、各セグメントにその内容を要約したコードをつけた。③コードごとにセグメントの内容を読み返し、必要に応じてコードの再割り当てをおこなった。④コードを内容の関連の深いカテゴリーごとに分類した。⑤コードごとの出現回数および割合を算出した。

これらの分析方法を併用したのは、①テキストマイニングは大量のテキストデータを分析することで出現頻度の高い語の関連を把握し、一定の特徴を発見できるが出現頻度の低い語を分析できないため、であり②質的分析では、出現頻度の高低に限らず内容上の関連を把握しやすいため、である。

(3) 倫理的配慮

本研究では第1回調査時に、調査協力者に口頭で調査の趣旨、縦断的調査に伴う記名調査の実施、個人情報保護とデータ利用について説明した後、記名による回答をもって同意を得たものとした。第2回調査時は、文書にて第1回調査と同様の内容を説明し、記名による回答をもって同意を得たものとした。

3. 結果

(1) はじめての保育実習への不安（第1回調査）

①自由記述に使われた単語からみた保育実習の不安要素
第1回調査より「あなたが保育実習に感じている“不安”について、その理由も踏まえて教えてください。」の設問に対する自由記述での回答に用いられた語句を分析する。

表1は、この設問に関する回答に多く出現した「名詞」を抽出したものである。不安について問う質問であるため、出現頻度としては「不安」の文字が高いが、特徴的な語句であることを示すスコアに着目すると、「実習記録」「保育者」「部分実習」の3つが、保育実習に対する学生の不安要素としてとくに目立つものであることがわかる。

表 1. 自由記述にみられる「名詞」の分析

名詞	スコア	出現頻度
不安	96.08	90
子ども	129.21	75
保育者	670.4	64
実習記録	828.06	61
実習	84.01	38
部分実習	447.07	35
指導案	279.86	23
対応	4.69	17
保育	31.92	14
ピアノ	7.52	14
質問	4.54	13
毎日	1.2	13
園	15	11
苦手	1.58	11
言葉	1.03	11

表 3. 自由記述にみられる「形容詞」の分析

形容詞	スコア	出現頻度
上手い	11.61	33
いい	0.51	26
怖い	2	20
良い	0.35	16
難しい	0.2	5
少ない	0.19	4
細かい	0.45	3
忙しい	0.11	3
大きい	0.1	3
しんどい	0.07	3
すごい	0.02	3
うすい	1.11	2
正しい	0.18	2
遅い	0.04	2
悪い	0.02	2

同様に、「動詞」についてもみると、表 2 の通り「書ける」「関わる」の 2 つが高スコアとなっている。「書ける」は実習記録や指導案などの文書作成と関連し、「関わる」は保育実習中にかかわる実習先での保育者や子どもとのかかわりという意味で用いられているものと考えられる。

「形容詞」については、表 3 の通り、「上手い」という言葉がもっとも多く使われており、他の単語に比べてスコアも高い。実習先での人間関係や部分実習をおこなうこと、そして子どものかかわりなどについて、ただ「する」のではなく「上手く」こなせるかどうかという点について不安を感じる学生の心情が保育実習に対する不安の特徴の一つとして挙げられる。また「上手く」やりたいと思う気持は、裏を返せば実習への前向きさにもつながるものである。

表 2. 自由記述にみられる「動詞」の分析

動詞	スコア	出現頻度
できる	4.05	57
書く	3.63	27
関わる	17.46	26
書ける	22.66	22
しまう	0.76	22
分かる	1.66	21
わかる	0.77	20
考える	1.02	19
思う	0.18	18
かかる	1.51	15
いける	0.75	13
すぎる	0.14	12
行く	0.11	12
聞く	0.25	10
楽しむ	0.38	8

②不安に関する要素の構成

次に実習に対する不安の内容を自由記述の内容からカテゴリごとに分けて、その内訳および割合を示したのが表 4 である。もっとも多く上がったのは「実習記録」に関することである。「実習記録の書き方がわからない」という記述もあるが全体の中での割合は少なく、実習記録に関する記述の多くが「毎日の実習記録」「書くのが遅いので実習記録にどれだけ時間がかかるか不安」「記録を書き終えられるか不安」など、保育実習期間中続く実習記録作成にかかる労力や記録作成に必要な時間が長時間になることを懸念し不安を感じている回答が多かった。

続いて不安として挙げられたのは「責任実習・部分実習」である。担任に保育者にかわり 1 日もしくは 1 日のうちのどこかの場面を担当する責任実習・部分実習については、大学の授業内で実施する模擬保育とは異なり、どのような反応が起こるのかわからない子ども相手に実施することから、子どもと実際にかかわる経験の浅い(ない) はじめての保育実習を控えた学生にとっては、想像しにくく、また本当に自分にそれができるのかどうかという不安もいさややすい実習内容である。学生の回答を引用するならば「どのように進めたらよいのか、子どもが楽しんでくれるのか分からない」「年齢や発達にあった保育内容やかかわり方がわからない」など「わからない」ことを理由とするものもあれば、「子どもに楽しいと思ってもらえるか」など子どもたちの反応を気にしたり、「前にでるのが苦手」「緊張して上手くすすめることができないかもしれない」など、子どもたちをリードする立場での振る舞いに対する自信のなさが不安となっているケースも散見された。また「失敗は当たり前だけれど、失敗することに不安がある。」というように、「失敗したくない」「上手くやりたい」という意識もまた不安要素を生み出す要因となっている。

次に多く上がったのが「職員との人間関係」である。どのような保育者のもとで実習をするのかということは学生にとっては実習のしやすさに直結する切実な問題であることが窺える。「職員との人間関係」を不安であると回答した学生の中には先輩や実習を経験のある友達の体験談や伝聞から「職員との人間関係」に不安をもった学生も少なくないことがわかった。また保育現場を「女社会」「女性の職場」と表現し、保育現場の人間関係に対して「怖い」という先入観をもつ学生もいた。

表 4. 保育実習についての不安

不安要素		件数	%	
カテゴリー	コード			
職員に関する不安要素	職員との人間関係	40	12.1	
	怒られないかどうか	4	1.2	
	迷惑をかけないかどうか	2	0.6	
	質問できるかどうか	8	2.4	
実習内容に関する不安要素	実習に必要な技術面	ピアノ	11	3.3
		手遊び	6	1.8
		絵本の読み聞かせ	5	1.5
		歌	2	0.6
	子どもへの援助、指導	言葉掛け	7	2.1
		トラブル対応	14	4.2
		遊び	0	0.0
		援助方法	3	0.9
		子どものかかわり	18	5.5
		集団へのかかわり	1	0.3
		責任実習、部分実習	42	12.7
	文書作成	臨機応変な対応	12	3.6
		何をすべきかわからない	3	0.9
		実習記録	56	17.0
実習中の生活面に関する不安要素	指導案	16	4.8	
	体調管理、体力	19	5.8	
	睡眠時間	13	3.9	
	寝坊、遅刻	4	1.2	
自分への不安要素	実習と家事の両立	1	0.3	
	積極性	2	0.6	
	緊張	3	0.9	
	失敗	3	0.9	
	勉強不足	2	0.6	
	自信がない	4	1.2	
	実習生に相応しい装いや振る舞い	6	1.8	
	子どもや保育者の反応や自身への評価	4	1.2	
	保育職への意欲	3	0.9	
	保育職への適性	1	0.3	
	漠然とした不安	6	1.8	
その他	その他	9	2.7	
合計		330	100	

(2) はじめての保育実習への期待 (第1回調査)

①自由記述に使われた単語からみた保育実習の期待要素

次に「あなたは保育実習に対して、どのような“期待”をいただいていますか。」という設問についての自由記述の分析をおこなう。この設問に対して無回答や「特になし」と回答した学生はいなかった。表 5 は保育実習に対してもつ「期待」に関する自由記述の中から「名詞」を抽出したものである。多くみられた単語は「子ども」と「保育者」である。実際に子どもとかかわることや、保育者の保育実践から学ぶことや、「将来」の単語からは、自らの進路に関する事柄を保育実習に期待していることがわかる。

表 5. 自由記述にみられる「名詞」の分析

名詞	スコア	出現頻度
子ども	214.97	104
保育者	494.41	49
保育	58.01	21
現場	5.80	15
期待	2.51	15
実習	15.14	13
成長	4.91	13
将来	5.79	11
言葉	0.7	9
関わり	9.3	7
掛け	5.87	7
対応	0.84	7
発達	8.08	6
保育士	6.42	6
仕方	0.41	6

次に「動詞」に着目する(表 6)。表 5 で多く確認された「子ども」や「保育者」との関連で「関わる」や「学ぶ」「学べる」などが目立っている。また「できる」という単語からは、保育現場における自らの挑戦(子どもとかかわること等)や、学びたいことがあることが窺える。

表 6. 自由記述にみられる「動詞」の分析

動詞	スコア	出現頻度
関わる	34.21	38
できる	1.82	38
学ぶ	25.98	26
知る	0.43	13
思う	0.08	12
感じる	0.35	8
見る	0.04	7
思える	0.66	6
見れる	0.27	6
わかる	0.05	5
学べる	4.81	4
出会える	1.02	4
働く	0.22	4
気づく	0.14	4
会う	0.1	4

「形容詞」については、特段にスコアの高い単語はなく、出現頻度がやや高いものは「子ども」にかかる「かわいい」であった(表 7 参照)。

表 7. 自由記述にみられる「形容詞」の分析

形容詞	スコア	出現頻度
かわいい	0.23	8
いい	0.03	6
深い	0.35	4
楽しい	0.02	3
強い	0.02	2
細かい	0.05	1
おもしろい	0.03	1
こわい	0.02	1
近い	0.01	1
上手い	0.01	1
大きい	0.01	1
新しい	0.01	1
しんどい	0.01	1
うい	0.01	1
怖い	0.01	1

②期待に関する要素の構成

保育実習への「期待」に関する記述について、回答者の自由記述の内容を示したのが表8である。

表8. 保育実習への期待

カテゴリー	期待要素	件数	%
	コード		
学びたい	保育現場を知る	12	5.3
	保育者の保育実践	21	9.3
	子どもの成長・発達	14	6.2
	子どもとのかかわり方	14	6.2
	遊び	1	0.4
	臨機応変な対応	2	0.9
	子どもについて	11	4.8
	援助方法	1	0.4
	言葉掛け	8	3.5
	トラブル対応	2	0.9
	引き出しを増やす	1	0.4
	保育者の職務	1	0.4
	クラス全体をみる	1	0.4
	学びが深まる	2	0.9
	手遊び	2	0.9
	導入	1	0.4
	保育技術の向上（具体例なし）	2	0.9
	環境構成	1	0.4
	ボランティアとは違う学び	2	0.9
	指導案	1	0.4
保護者対応	1	0.4	
実践したい	子どもとかわること	35	15.4
	部分実習	1	0.4
	保育実践（授業で習ったことを実践）	5	2.2
	子どもたちを楽しませたい	1	0.4
	積極的に動く	1	0.4
自分自身の成長や学び	自己の成長	14	6.2
	自己の発見	1	0.4
	達成感	2	0.9
	視野の広がり	1	0.4
	子どもへの見方・考え方	3	1.3
	楽しみたい	2	0.9
	良い保育者に成長したい	2	0.9
	実習記録に慣れる	1	0.4
	これからの自分に役立つ学びがある	1	0.4
自分への評価	1	0.4	
就職・進路	社会人としての礼儀	2	0.9
	保育者から就職について話を聞く	2	0.9
	進路決定の参考	13	5.7
	保育者になる意欲を高める	5	2.2
	保育者になるための課題を発見する	3	1.3
	就職決定の参考	2	0.9
その他	子どもの存在や言動	5	2.2
	子どもの反応	1	0.4
	子どもとの出会い	5	2.2
	保育所と幼稚園の違いを知る	1	0.4
	子どもを好きになる	2	0.9
	昔の担任にあいたい	1	0.4
	保育者からの助言・指導	4	1.8
	保育者との出会い	7	3.1
	保育現場の悪いイメージを払拭	1	0.4
	保育士とかわること	1	0.4
	合計	227	100.0

まず「学びたい」のカテゴリーでは、「保育者の保育実践」「子どもの成長・発達」「子どもとのかかわり方」「子どもについて」「保育現場を知る」「言葉掛け」などが多く挙げられた。「実践したい」のカテゴリーでも、「子どもとかわること」がもっとも多く登場しており、どちらにも共通するのは「大学ではできないこと学び・体験」である。

「自分自身の成長や学び」のカテゴリーでは、「自己の成長」が多く挙げられていた。「実習を通して、自分が人間的にどのように成長するのか。」「もっと周りの見れる人間になれたらいいな。」「1日目と最終日で比べてできることが増えてること。」「人前に立ってなにかすることに自信が持てるようになること。」など、実習前に感じている自らの課題の克服を期待する姿がみられた。

「就職・進路」に関するカテゴリーに属する回答も多くみられた。「一般就職と迷っているの、どちらにしても決め手になれば良いと思う。」「自分に合っているのか考えることができるので楽しみ。」というように、保育実習を通して、数ある職業の中から保育職を選択するか否かの判断材料を得られることへの期待がある。また、保育職への就職希望を有する学生にとっても「現場に向くことで保育職に対するイメージが具体的になって保育職を目指したい思いが強くなること。」など、より具体的に保育職へのイメージをもったり、保育職へ就くことへのモチベーションにつながるような体験を実習に期待している学生も多い。また「その他」のカテゴリーの中にある、「保育者との出会い」にも注目したい。「憧れの保育者との出会い」「保育者を見てさらに保育者を目指したいと思えるような保育者の良さがみたい。」という声からも、今後の学習や保育職のモチベーションにつながるような保育者との出会いを学生が期待していることもわかる。

(3) 遠隔授業による実習への不安（第2回調査）

①自由記述に使われた単語からみた遠隔授業による実習への不安要素

次に第2回調査の自由記述を通して、コロナ禍における大学の「遠隔授業」が、学生の実習についての学びの過程の中でどのように受け止められているのかという点について明らかにすることを試みる。

まず「あなたが実習に臨む上で感じている【不安】で、前期の遠隔授業や新型コロナウイルスによる様々な自粛が原因と考えられるものとして、どのようなものがありますか。」の設問に対する自由記述に出現した単語を分析する。

表9は自由記述の中に出現した「名詞」の出現頻度およびスコアである。実習に関連する不安について問う質問であるため、出現頻度の高い単語は「不安」および「実習」である。一方でスコアの値が高い単語は「模擬保育」「部分実習」「実習」である。大学の授業でおこなう「模擬保育」や実習中におこなう「部分実習」や「責任実習」など自らが保育者の立場でおこなう保育実践に関する事項が目立っている。

「動詞」については「できる」の出現頻度が突出して高いもののスコアの低い単語はみられなかった。形容詞については、出現頻度およびスコアのどちらも低く突出

した傾向のみられる単語はなかった。

表 9. 自由記述にみられる「名詞」の分析

名詞	スコア	出現頻度
不安	83.64	83
実習	115.46	47
実技	87.46	21
模擬保育	239.32	20
保育	50.16	19
授業	6.91	18
先生	1.85	16
部分実習	147.48	13
実践	13.79	10
子ども	2.53	8
学生	1.61	7
まま	0.52	7
友達	0.26	7
責任実習	61.38	6
延期	4.64	6

②遠隔授業による実習への不安要素の構成

回答者の自由記述の内容をカテゴリーごとに分けて、その内訳および割合を示したのが表 10 である。

「学び・情報の不足」に関するカテゴリーの中でもっとも多い不安は「実技の経験不足」である。「乳児の抱き方、おむつの替え方など本来なら授業で人形を使って練習するであろうものが、遠隔で映像を見るのみになり、できなかったため、このまま実習に行くことに不安を感じている」「模擬保育が出来なかったため、部分実習に不安がある」「実技が出来ず、経験がないまま保育をすることに不安がある」などの記述がみられた。

「学びが不十分ではないかと不安になる」に分類された自由記述には「オンラインだと、先生の授業をきちんと正しい解釈で受け取れているかがわからないから」「科目の担当の先生によって授業の密度が違っていたため、本当に身につけているのか不安な科目がある」などがある。また上記の不安と重なる部分も多い「情報の確認漏れへの不安」も遠隔授業下で生じる不安の原因となっている。今回の調査対象である学生は、初めての保育実習を控えた学生である。彼女たちにとって、実習に関する事務手続きや実習に関して必要な実習園とのやりとりなどすべてが初めての経験となる。漏れがあってはならない実習関係の事項に関しては、その内容を十分に理解できているのかどうか、見落としがないかどうか不安な気持ちになるのも無理がないことだともいえるだろう。

「人とのかかわり」については、遠隔授業、学内立ち入り禁止などの影響でとくに「友達とのかかわり」がもてなかったことに起因する不安があったようだ。自由記

述では「学生同士での実習に関する情報交換がなかったため漠然とした不安がある」「実技ができていないのと、友達同士で実習の不安などの共有もしてないのもあり、不安はあるが緊張感が足りないと感じるため」「友だちや先生と直接会って不安を解消したり疑問をぶついたりして実習に挑みたかったです」などの意見がみられた。

「実習延期による影響」としては、3年次6月に予定されていた保育実習を経験してから進路を検討しようと思っていた学生にとっては一般就職の就職活動をはじめのタイミングを逸したようである。また「実習準備への影響」としては「活動自粛に伴い図書館が休館になったり外出を自粛したりして、教材研究や事前準備が思うようにできなかった」や「コロナで実習期間に変更が出るかもしれないことや部分実習についても考える活動に制限があることに不安がある」などの意見がみられた。

「健康状態」への影響についての記述もみられた。「自粛が多かったので2週間（保育実習期間）も早起きしたり動いたりして体調を崩さないか心配である」「ほとんどの時間、自宅で授業・課題に取り組んでいたため体調に影響がないか不安である」など、コロナ禍での外出自粛による体力の低下などが保育実習に影響しないかどうかを不安視していることが窺える。

設問の内容とは少し異なるが、コロナ感染に関する不安として「実習先でコロナを貰わないか不安」「コロナウイルスを自分が持ち込んでしまったらどうしようという不安がある」などの回答がみられた。また、コロナ禍に保育現場で実習をおこなうことになることを想定して「実習中、マスクをして部分保育などを行う場合、声を通るか不安である」や「(実習先で)コロナ対策がどの程度徹底されていて、設定保育でどこまでなにをしていいのかわからない」などの記述もみられた。

表 10. 遠隔授業による実習への不安

カテゴリー	不安要素	件数	%
	コード		
学び・情報の不足	実技の経験不足	45	36.9
	学びなどが不十分ではないかと不安になる	16	13.1
	質問の機会	3	2.5
	情報の確認漏れへの不安	3	2.5
人とのかかわり	友達とのかかわり	13	10.7
	教員とのかかわり	2	1.6
実習延期による影響	実習延期による進路選択へ不安	1	0.8
	実習延期による実習準備への影響	3	2.5
	実習延期による不安	4	3.3
健康状態	体調管理、体力維持	8	6.6
新型コロナウイルス	コロナ感染への不安	4	3.3
	コロナ禍の保育現場での実習	3	2.5
その他	その他	3	2.5
特になし	特になし	14	11.5
	合計	122	100.0

(4) 遠隔授業による実習への肯定的要素(第2回調査)

①自由記述に使われた単語からみた遠隔授業による実習への肯定的要素

次に「実習のための事前準備や学習として、前期の遠隔授業（全受講科目を想定）の良かった点として、どのようなものがありますか。」という設問に対する自由記述についてみていくことにする。

表 11 は、実習のための事前準備や学習として遠隔授業の良かった点を問う自由記述の中から「名詞」を抽出したものである。遠隔授業に関する質問のため出現頻度としては「授業」がもっとも多く、続いて「動画」「課題」などの遠隔授業に関連する単語が続く。スコアでは「指導案」「オンデマンド」の2項目が目立つ。

表 11. 自由記述にみられる「名詞」の分析

名詞	スコア	出現頻度
授業	13.69	26
動画	3.95	25
課題	9.46	19
何度	6.93	17
実習	19.24	15
資料	13.68	15
理解	3.39	15
ペース	5.38	10
保育	16.19	9
指導案	85.16	8
オンデマンド	24.53	8
講義	5.10	7
先生	0.36	7
復習	7.72	6
書き方	6.36	6

「動詞」で出現頻度が高かったのは「できる」「見返す」である(表 12 参照)。「見返す」はもっともスコアが高く、遠隔授業の中で学生にとって「見返す」ことが大きな意義をもっていたことが窺える。なお、形容詞に関しては出現頻度・スコアともに目立つ単語はみられなかった。

表 12. 自由記述にみられる「動詞」の分析

動詞	スコア	出現頻度
できる	8.91	85
見返す	35.50	29
書く	0.51	10
見る	0.07	10
思う	0.05	9
くださる	0.13	8
考える	0.14	7
受ける	0.33	5
感じる	0.14	5
出す	0.10	5
作る	0.07	5
聞く	0.06	5
くれる	0.03	5
止める	0.37	4
調べる	0.20	4

②遠隔授業による実習への肯定的要素の構成

回答者の自由記述の内容をカテゴリーごとに分けて、その内訳および割合を示したのが表 13 である。

想定外の事態(コロナ禍)により遠隔授業に移行したため、教員にとっても学生にとっても不慣れな状態での授業をはじめ、試行錯誤の連続であったが、そのような状況下であっても、学生が「実習のための事前準備や学習として、前期の遠隔授業(全受講科目を想定)の良かった点」を挙げている。

まず「学びの方法」という面では、遠隔授業は「繰り返し学ぶことができる」「自分のペースで学ぶことができる」という点で多くの学生が良かった点として挙げている。学生の自由記述の内容としては「何度も(授業動画や資料を)見返すことができたため、より理解を深めることができました」「オンデマンドの授業ではメモすることができ、また自分のペースで見ることが出来るため視聴しやすかった」などの意見がみられた。

「学びの量・質」に関するカテゴリーに分類されたのは「学びが深まる」「知識が増えた」「実習に役立つ学びができた」「ICT スキルの向上」である。「グループワークで他の人の意見を聞いたり、クラスルームで遊びのアイデアなど共有することで部分実習など指導案を考える参考になった」「自分で資料や教科書をじっくりと読む時間があり、施設や幼児理解についてなどの知識を蓄えられているという実感が持てた」「動画で踊ったものやプレゼン内容を録画し、編集したりする技術を得た」などの意見がみられた。

その他、「時間の有効活用」という視点で「通学にかかる時間がないため、課題にじっくり取り組めた」「通学の時間が無くなり、自宅で保育教材や折り紙を作ったりする時間に余裕ができた」というように、遠隔授業により空いた時間を有効活用できた学生もいたことがわかった。また、遠隔授業を受講することで情報機器の操作に慣れたのか「ICT スキルの向上」を挙げた学生もいた。情報収集能力の向上や「動画で踊ったものやプレゼン内容を録画し、編集したりする技術を得た」と回答している。これは実習だけでなく就職後にも活用できるスキルである。回答件数としては少ないが、実際には多くが遠隔授業を通して ICT スキルの獲得、向上を果たしたのではないかと思われる。

表 13. 実習に向けて遠隔授業が役立つと思う点

項目		件数	%
カテゴリー	コード		
学びの方法	繰り返し学ぶことができる	36	32.1
	自分のペースで学ぶことができる	14	12.5
学びの量・質	学びが深まる	8	7.1
	知識が増えた	1	0.9
	実習に役立つ学びができた	11	9.8
	ICTスキルの向上	2	1.8
学ぶ姿勢	主体的な学習態度	2	1.8
	時間を有効活用	7	6.3
配付資料	資料の管理のしやすさ	5	4.5
	役立つ資料の配付	3	2.7
その他	その他	3	2.7
特になし	特になし	20	17.9
	合計	112	100.0

4. 考察

本研究を通して、はじめての保育実習はさまざまな不安を伴うものであることを改めて確認することができた。そして自由記述の分析を通して、学生のもつ保育実習についての具体的な不安の内容がみえてきた。学生の保育実習に対する不安として「実習記録」「職員との人間関係」「責任実習・部分実習」などが挙げられた。たとえば「実習記録」の回答に用いられる単語を分析すると、書き方が分からないよりも、「上手くできるかどうか」「きちんとできるかどうか」を不安の内容として挙げている学生が多いことが分かった。「責任実習・部分実習」についても同様で「上手くできるかどうか」「子どもを楽しませることができるかどうか」などに対する不安もみられた。これらは岩崎（2009）⁽⁷⁾や渡邊（2018）⁽⁸⁾の先行研究のように因子分析をおこなうことで見逃されてしまう内容であろう。

また、本研究で抽出されたカテゴリー「実習中の生活面に関する不安要素」と「自分への不安要素」は、渡邊（2018）⁽⁹⁾などで指摘されているものの他の要素に比べると先行研究での指摘は少なく、今後より詳細な分析が求められるだろう。さらに、「保育者との人間関係」に関する不安も大きい。これは学生が日常生活の中で社会人とのかかわりの少なさなども関係していると思われる。

このように学生のもつ保育実習への不安の中に、これまでに経験したことがないからこその不安や、解決策や答えがすぐに出ない性格の不安が多くあったことを踏まえるならば、実習記録の書き方や模擬保育といった保育実習に必要なスキルの向上を目的とする授業だけでなく、学生が実習に対して前向きに取り組むためのメンタル面のトレーニングを取り入れることなども有用なのではないかと感じた。

一方で、本研究を通して、学生が保育実習に対してさまざまな「期待」を抱いていることも判明した。保育実習を通して子どもとかかわることができる点や、保育現

場に出て保育技術を習得したり保育者の保育実践をみて学びを深めたいという期待を持つ学生が多いことがわかった。これらの点は、先行研究とも一致していた。またカテゴリー「就職・進路」に示される、保育実習をとおして保育者への適性を見極めたい、保育者から保育職についての話を聞きたいなど、進路決定に影響を与える機会として保育実習に期待を抱く学生も多いことが明らかとなった。この点は、カテゴリー「自分自身の成長や学び」とともに先行研究では見られなかった点である。そのため、これらに焦点をあてた実習指導も求められるだろう。

こうした結果から、はじめての実習前に完全に不安を解消することはできないものの、解消しきれない不安にばかり焦点をあてるのではなく、学生が実習に対して持つ期待についても十分に把握し、期待の方に目を向けるような仕掛けをすることで、実習に対する前向きな態度や雰囲気醸成できる可能性があるように思われた。

さて本稿では 2020 年度前期のコロナ禍での保育実習に関する遠隔授業を学生がどのように受け止めたのかという点についても検討した。自由記述からは、学生が友達とともに実習について情報交換をしたり不安を分かち合ったりすることを強く求めていることが伝わってきた。今後も遠隔授業をせざるを得ない状況が生じる可能性はあるため、たとえウェブ上であっても学生同士が実習について話し合い不安や期待を共有しあう機会をもてるような方策も検討する必要があると考えた。

一方で、とくにオンデマンド型の遠隔授業の「繰り返し学ぶことができる」こと、「自分のペースで学ぶことができる」といった点は学生の「深い学び」や高い満足度につながる可能性があることがわかった。本調査の対象学生の学年については、従来対面でおこなっていた実習ガイダンス（学校教育センターによる開催）が、登学禁止期間中であったことから資料配布のみとなっていた。実習に必要な手続きや注意事項など重要な内容について説明される実習ガイダンスが開催されず、当初はガイダンス資料が配布されるだけの状態であった。しかし、学生が大きな不安を抱いたり実習に必要な手続きに支障がでたりする可能性があると考え、保育実習指導担当教員がガイダンス資料の詳細な解説動画を作成し学生に提供した。このことについて学生の自由記述の中には「施設実習の事前ガイダンスがなく、資料のみで不安に感じていたところ、追加の資料や動画が公開されたため、重要な箇所や注意すべき点がわかりやすく、何度も見返して確認できたので、不安が少し解消した」という記述がみられた。この事例から、コロナ禍であるか否かに限らず、理解を徹底すべき内容を学生に伝える際には、対面での伝達だけでなく、学生が自分のペースで繰り返し視聴できる資料を併用することで、学生の理解を助け不安を軽

減することにつながる可能性を見出すことができた。

5. 今後の課題

なお、本調査対象の学生は遠隔授業終了後（前期終了後）より保育実習（施設）、幼稚園教育実習、保育実習（保育所）と続けて実習をおこなっている。今後の課題としては、今回調査した、はじめての保育実習を控えた学生の不安や期待について、実習を経験した後に学生自身がどのように振り返るのかという点についても調査を実施するなどして、実習前に有する不安や期待がどのように変化するのかについても調査をおこないたい。

注

- (1) 渡邊舞「保育者養成課程校で学ぶ「専門学校生」は実習に対してどのような不安を感じているのか—実習不安尺度の作成と自己効力感の関連—」『豊岡短期大学論集』（14），2018年。
- (2) 岩崎桂子「保育実習に関する不安調査からの一考察」『研究紀要』（2），小池学園，2009年。
- (3) CiNiiで「保育実習&不安」で検索したところ54件が該当し本研究に直接関係する、実習前の不安自体を対象にした研究は10件、「保育実習&期待」で検索したところ22件が該当し本研究に直接する、実習前の期待自体を対象にした関係したのは2件であった。
- (4) 貴田美鈴「保育実習（施設）の事前指導における学生の意識—実習への期待感と不安感を中心に」『学術教育総合研究所所報』（3），2010年。
- (5) スコアとはその単語の「重要度」を表す値である。単純に単語の出現回数だけに焦点をあてた場合には、「思う」や「ある」など一般的な単語の出現回数が多くなり、自由記述における重要な言葉を抽出することが難しくなる。そのため、テキストマイニングツールでは、一般的な文章の中でよく出現する単語は重み付けを軽くし、対象の調査中においてのみ特徴的に出現する単語を重視している。つまり出現回数だけでなく、重要度を加味した値が「スコア」であり、スコアが高い単語は、分析対象の自由記述を特徴づける単語であることを示している。
- (6) 佐藤郁哉『質的データ分析—原理・方法・実践』新躍社，2008年。
- (7) 岩崎桂子，前掲論文。
- (8) 渡邊舞，前掲論文。
- (9) 同上。

付記：本論文は武庫川女子大学2019年度・2020年度共同研究補助費（学部長裁量）の研究助成による成果の一部である。